

高等学校

平成 7 年 度

教育研究員研究報告書

公 民 科

東京都教育委員会

教育研究員名簿

No.	学 区	学 校 名	氏 名
1	5	都 立 足 立 西 高 等 学 校	影 山 洋
2	6	都 立 両 国 高 等 学 校	篠 田 健 一 郎
3	6	都 立 葛 西 南 高 等 学 校	福 崎 勇 二
4	6	都 立 本 所 工 業 高 等 学 校	鈴 木 誠
5	8	都 立 青 梅 東 高 等 学 校	本 間 恒 男
6	8	都 立 農 林 高 等 学 校	星 野 好 彰
7	10	都 立 調 布 北 高 等 学 校	岡 田 信 昭

担 当

教育庁指導部高等学校教育指導課 上 村 肇

目 次

研究主題 現代社会の諸問題に関する基礎的事項の学習を通して主体性と協調性を養う指導の工夫

I	主題設定の理由と研究の経過及び今後の課題	2
1	主題設定の理由	2
2	研究の経過	2
3	今後の課題	2
II	我が国の政治、経済の課題について考える	3
1	日本経済の成長と規制緩和	3
2	国民の政治参加と選挙制度	4
III	国際関係の理解を深める	5
1	国際関係の決定要因について考える	5
2	円高・円安の基本理解を目指した指導	7
3	戦後50年を機に日本とアジアの関係を考える	10
IV	現代倫理の諸問題について考える	11
1	情報化と倫理	11
2	自然環境観の一視点と倫理	13
3	理性を学ぶ	14
4	脳死と現代倫理	16
V	人権と差別について考える	17
1	差別と共生～差別する心を考える	17
2	キング牧師の思想とマルコムXの思想	18
VI	地球環境の危機について考える	20
1	オゾン層の破壊	20
2	熱帯林の破壊が地球環境に及ぼす影響	21
<資料>		
1	「国民の政治参加と選挙制度」の授業の作業プリント（Ⅱの2）	23
2	「日本経済の成長と規制緩和」の授業の生徒の意見文（Ⅱの1）	24
3	「脳死と現代倫理」の授業の生徒の感想文（Ⅳの4）	24

研究主題 現代社会の諸問題に関する基礎的事項の学習を通して主体性と協調性を養う指導の工夫

I 主題設定の理由と研究の経過及び今後の課題

1 主題設定の理由

1995年の年明け早々、近年では最大級の自然災害である阪神・淡路大震災が起こり、国際都市神戸は一瞬のうちに廃墟と化した。また、3月には世界を震撼させた地下鉄サリン事件が発生し、我が国の安全神話はもろくも崩壊した。本部会は、現代を予測困難な出来事が多発する時代ととらえ、現代社会に生きるわたしたちは従来の考え方だけでは対応できない状況下にあると考えた。そしてこのような不確実性の極めて高い社会に生きる現代人の、人間としての在り方生き方について、研究を深め、協議を重ねてきた。

現代社会は、環境・資源・人口・人権・平和などの様々な問題を抱えながら21世紀を迎えようとしている。本部会は、変化の激しい時代ほど基礎的事項及び基本的内容の学習から得られる応用力が必要であり、かつ主体性と協調性を兼備した調和のとれた人間の育成が重要であるとの結論に達し、本主題を設定した。

2 研究の経過

まず、各研究員が現任校での日々の授業における試行錯誤の中から、本年度の研究にふさわしい課題を持ち寄ることから始めた。そこでは、①現代社会は予想を越えた出来事が起こること、②そのような社会の中で自らの生きる指針を見失うことなく主体的に生きていくためには、まず、基礎・基本の徹底した学習が必要であること、③それとともに協調性もはぐくまなければならないこと、が合意された。とくに協調性については、阪神・淡路大震災でのボランティア活動や地球規模での環境問題への取り組み、あるいは国際化した社会の現状を見ると、主体性とともに今日の学校教育の場で考える契機を与える必要があるとの認識で一致した。

つぎに、設定した研究主題にそった研究内容を各研究員が持ち寄り、研究協議を重ねた。協議は、現代という時代をどのようにとらえるべきかという時代認識から、生徒の価値観が多様化する状況などにどのように対応するのか、また、ひとりでも多くの生徒の魂をなんらかの形で揺さぶり主体性と協調性を育てるにはどうすればよいのか、という毎日の授業研究の中からあらわれる問題意識まで、多岐にわたった。

3 今後の問題

各指導案にまとめられた研究は共同研究の成果である。しかし、公民科というひとつの教科でありながら倫理や文化から政治や経済まで幅広い内容を扱うので、それぞれの科目としては内容に大きな違いもあり、科目の特色を生かしながら互いに協力して教材開発と指導方法を確立するにはどのような方法があるのかについては、さらに検討していく必要がある。

II 我が国の政治、経済の課題について考える

1 日本経済の成長と規制緩和

(1) 教材として取り上げた理由 学習指導要領「政治・経済」の「(3) 現代の経済と国民生活」において日本の経済社会の仕組みと特質を学んだ生徒の中には、定時制課程に在籍し、職場で働いている者もいる。彼らは、学習の結果、自らの体験している現実の生活背景を知り納得したり、あるいは学習内容が現実と乖離していると反発する場合も考えられる。全日制課程の生徒も、現実の経済社会に生きていることに変わりはない。日々の生活に直結し、生徒たちが日本の経済社会をさらに深く理解する手掛りとして「規制緩和」を教材とする。「規制緩和」に関しては、経済生活の発展は私たちの生活を豊かにしてきたが、国民の生活の豊かさが実感されないのは「規制緩和」が十分でないからだという意見が一部で強く出されている。また日本経済の国際化により経済摩擦が生じ、日本経済の閉鎖性が問題とされ「規制緩和」を求める諸外国からの声は高まっている。このような現状にあって規制緩和について考えることは重要である。

(2) 本時のねらい 「日本経済の現状と課題」について4時間で学習する。第1時限では敗戦から復興の時期、第2時限では高度成長から安定成長への移行、第3時限ではバブル期から現在までの、それぞれ日本経済の特徴について学習し、第4時限（本時）では、日本経済が急速な経済発展の一方で諸外国と経済摩擦を発生させている状況を考察し、規制緩和の問題を軸に今日の日本経済が置かれている状況を客観的に把握する。学習指導要領では、「政治・経済」の「(3) 現代の経済と国民生活」の「ウ 現代経済と福祉の向上」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 日本の「規制」とされる実例 	<ul style="list-style-type: none"> 酒税、大店法、特石法という具体例をもって「規制緩和」の実態を知る。 日本と諸外国の意見の違い、生産者と消費者の意見の違い、を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体例の提示 プリント配布
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> 規制緩和は積極的に行うべきだとする意見 規制緩和は慎重に行うべきだとする意見 	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の日本経済の成長と産業保護政策を確認する。 規制緩和が日本の経常黒字の削減や消費者の利益になるという考えを確認する。 規制緩和が安全性と雇用の確保を乱し日本の経済秩序の混乱をもとらすという考えを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「規制緩和」に対するそれぞれの立場に留意
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> 規制緩和についての自分の考えをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の経済状況を客観的に把握し、「規制緩和」の持つ意味を理解する。 経済活動に参加する個人として、積極的に規制緩和について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文作成

- (4) 評価の観点 ①資料の読解はできたか。②現代の日本と世界の経済が抱える問題としての「規制緩和」が理解できたか。③日本経済の発展と、「規制緩和」が求められる状況が関連していることが理解できたか。④「規制緩和」をめぐる問題を今日の問題として考えようとしているか。
- (5) 指導上の留意点 ①公民科、地理歴史科での学習の成果を生かせるように留意する。学習指導要領については、公民科では、「現代社会」の「(3) 現代の政治・経済と人間」から「イ 国民福祉と政府の経済活動」、「(4) 国際社会と人類の課題」から「イ 国際経済の動向と国際協力」に、「倫理」では「(3) 国際化と日本人としての自覚」から「ウ 世界の中の日本人」との関連に留意する。②「政治・経済」の他の分野での学習内容との関連に留意する。とくに、経済的分野全般へ配慮する。③広い視野から客観的に内容を理解させることに留意する。家庭科等における消費者教育への配慮はもとより、「教育課程編成の一般方針」に示された「望ましい勤労観、職業観の育成…に資する」ように留意する。④ひとつの価値をおしつけることなく、生徒の思考力の涵養に努める。都市に生活する消費者の視点のみではなく、農業従事者の視点ではどのように考えられるか、あるいは、農業を守ることが食糧自給や環境保全につながることに思考が及んだか、留意する。

2 国民の政治参加と選挙制度

- (1) 教材として取り上げた理由 昨年4月には統一地方選挙が行われ、多くの生徒が地元の議員選挙や首長選挙に直接触れる機会を得た。7月には参議院議員選挙が行われ、国政選挙をも身近に受け止めることができた、生徒は間もなく選挙権を得て政治に参加することになるので、政治に主体的にかかわっていかこうとする態度の育成と選挙権の大切さを理解させることをねらいとして、本教材を取り上げた。
- (2) 本時のねらい 政治と選挙をテーマに3時間構成とした。本時は第1時限目で、主権者たる国民の権利である選挙権の意義及び重要性と国政選挙における比例区選挙の仕組みを理解させる。第2時限目は、議員定数の配分（1票の重み）について、第3時限目は、政党政治と日本の政党について学習する。学習指導要領では、「現代社会」の「(3)現代の政治・経済と人間」の「ウ 日本国憲法と民主政治」で扱う。
- (3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 10分	選挙の結果	・4月の統一地方選挙及び7月の参議院議員選挙の中から選挙運動の話題や低い投票率の問題などを通して選挙への関心を持つ。	具体的に投票率を示して比較する。
	現行の選挙制度	・憲法の規定（第44、45、46、93条）及び公職選挙法に定められている議会の定数。議員及び首長の任期・被選挙権について説明を聞く。	

展 開 35 分	選挙制度の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙権がどのような経緯で拡大してきたか及び選挙法改正の変遷についての説明を聞く。 ・制限選挙の形態及び選挙権をもつ人が制限された背景について考える。 	1889年から1945年までの流れを取り上げる。
	選挙権の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の国民主権の規定との関係から選挙権の大切さを認識し、同時に公民としての重大な義務であることを理解する。 ・棄権は主権者であることを放棄する自殺行為であるから極力棄権しないように啓発する。 	新憲法の第1条と旧憲法の第1、3、4条を比較する。
	比例区選挙の当選者の決定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドント式議席配分方法の説明を聞いて今回の比例区選挙の結果を理解し、仮定の選挙結果をもとに作業を行う。 	作業プリントを配布する。
まとめ5分	政治参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・国及び地方公共団体の一員であることを自覚し、棄権が好ましくないことを認識する。 	改めて選挙権の意義を考える。

(4) 評価の観点 ①主権者の権利である選挙権の大切さを理解できたか。②実際の選挙結果及び仮定の選挙結果の作業を通して比例区選挙の仕組みを理解できたか。

(5) 指導上の留意点 ① 知事選挙・参議院議員選挙で話題となった事柄を取り上げて選挙への関心をもたせる。②選挙法改正の経緯をたどりながら、現行の選挙制度を認識させる。③作業を通して比例区選挙及び議席配分法を理解させる。④政治的中立に配慮して不偏不党の立場から適切に取り扱う。

(6) 参考文献 「選挙のしくみ」 宮川隆義 日本実業出版社

Ⅲ 国際関係の理解を深める

1 国際関係の決定要因について考える

(1) 教材として取り上げた理由 今日私たちは国際化の著しい進展の中にあるとされている。そこで具体的に求められるものは、国際平和と人類の福祉に寄与すること、及び国際社会に主体的に生きることである。そのためには、まず、具体的な学習に入る前に、国際関係を考える分析の枠組みをもち、国際関係がどのような要因で決定されるかを理解しておく必要がある。

- (2) 本時のねらい 「国際政治と日本」について3時間で学習する。本時は第1時限で国際関係を動かす基礎となる要因について、中学校までの社会科、高等学校の公民科、地理歴史科の学習を踏まえ、現代の世界と日本に関わる基本的な課題について考察する手掛りとする。第2時限では冷戦の始まりから終焉までの歴史、第3時限では冷戦の終焉から現在までの国際政治の歴史をそれぞれ学習する。学習指導要領では、「政治・経済」の「(1) 現代の世界と日本」の「ア 国際社会の変容と日本」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 5分	・冷戦とその終焉	・戦後史の枠組みを冷戦とその終焉後の世界の様子から確認する ・冷戦後の世界が抱えている諸問題を身近な例から想起する。	・具体例を提示 ・生徒への発問 ・プリント配布
展開 35分	・国際関係の歴史的系譜 ・国際連合の目的と機能 ・冷戦の展開と終焉	・19世紀までの国際関係の発展を確認する。 ・第二次世界大戦前の国際関係を国際連盟を中心に確認する。 ・第二次世界大戦後の国際関係の展開を次の2点から確認する。 ①冷戦を始まりから展開、終焉まで ②冷戦後の国際社会に噴出する諸問題	・世界史学習との関連に留意する。 ・広い視野から客観的に戦後を概観する。
まとめ 10分	・国際関係の決定要因	・パワー・ポリティックスを軸に、環境、人権、民族、宗教などさまざまな要因が国際関係を決定していることを知る。 ・国際関係を知る手がかりを理解し、私たちが国際社会と密接な関係にあることを知る。	・ひとつの価値観にとらわれることなく広い視野で考えるよう留意する。

- (4) 評価の観点 ①資料の活用等を通して、関係する諸科目の学習の成果を利用できたか。②国際関係の決定要因としてのパワー・ポリティックスが理解できたか。③今日の国際関係がパワーだけでなく、環境、人権、核、人口、食糧、民族、宗教などの諸問題によっても決まることに気付いたか。④今日の国際社会の複雑さを理解し、その問題を自分の問題として考えようとしているか。

- (5) 指導上の留意点 ①公民科、地理歴史科での学習の成果を生かせるように留意する。学習指導要領については、公民科では、「現代社会」の「(2) 環境と人間生活」「(4) 国際社会と人類の課題」と、「倫理」の「(2) 現代社会と倫理」「(3) 国際化と日本人としての自覚」との関連に留意する。②「政治・経済」の他の分野での学習内容との関連に留意する。学習指導要領の「(2) 現代の政治と民主社会」では「ウ 国際政治と日本」から国際連合と国際協力、安全保障の問題、国際政治の諸課題と、「(3) 現代の経済と国民生活」では「エ 国民経済と国際経済」から国際協調の必要性や様々な国際経済機関の役割との関連に留意する。③広い視野から客観的に理解させることに留意する。

- (6) 参考文献 「国際関係論」 J. フランクル 東京大学出版会
「国際関係論入門」 齋藤孝編 有斐閣

2 円高・円安の基本理解を目指した指導

- (1) 教材として取り上げた理由 海外旅行体験の日常化や個人輸入の普及から、コンピュータネットワークの広がりにはいたるまで、「国際化」の波は、けっして政治経済のマクロ的側面だけではなく、確実に生徒の日常生活にも押し寄せてきている。しかし、そうした「国際化の日常化」現象に直面した生徒たちが、真にそれらの現象を理解し、自らの判断基準を形成していくためには、何よりも国民経済が結びついた国際経済の基本的事項を確実に理解することが必要となってくる。そうした事象の一つである「為替相場」の理解のために本教材を取り上げた。
- (2) 本時のねらい 国民経済についての指導を終えた後、本教材を2時間で扱う。第1時限目は管理通貨制度におけるUSドルと円についての基本的な説明を行い、第2時限目に作業学習を通して、学んだ知識を自分の生きる力として活用できるように定着を図る。学習指導要領では「政治経済」の「(3) 現代の経済と国民生活」の「エ 国民経済と国際経済」の「貿易と国際収支の現状や為替相場の仕組み」で扱う。
- (3) 展開例

第1時限……管理通貨制度における円とUSドルの基本の学習

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 10分	外国為替の理解	☆国民経済が結びついた国際経済（世界経済）の場において、異なる通貨同士を交換させる仕組み（外国為替）が必要であることを理解する。	
展開 30分	国際基軸通貨について 円とドルの関係理解 円高と円安の概念	☆他国との決済には何か基準がなければならないことを理解する。 ☆上記「基準」の必須要件及びその要件を満たす通貨単位は何かを考える。 （農業・工業・資源・軍事etc） ☆変動相場制では、円とドルは需給関係により絶えず変動していることを再確認する。 ☆1ドル=100円と1ドル=200円では、どちらを円高と呼び、どちらを円安と呼ぶかを即答できるようにする。	①「ドル」が簡単に与えられた場合には「なぜドルなのか」を説明させる ②変動要因には言及しない ③需給関係の指導を通して「高・安」の意味を理解する。
まとめ 10分	輸出入との関係について	☆全く同じ製品を輸出入しても、為替相場により、その金額、次いで数量が変化することを予想する。	

【備考】について ①国際基軸通貨としてのドルの選択は、当然の事として扱わず、生徒の判断に質問を加えていきたい。※たとえばルーブルやドイツマルクが、なぜ基軸通貨になれなかったのか、円がなぜ基軸通貨はおろか国際通貨にさえなれないのか等
 ②特に「変動要因」については、購買力平価やアセット＝アプローチまで、諸説紛々としており、非経済的要因や心理にまで左右され、決定的なものはないので、余り言及しない。③円高については、現在の生徒は、それを想像以上に身近に感じているので余り深く言及しない。なお、けっして欲張らず、他の事柄は極力捨象し、為替相場の根幹のメカニズムを完全に理解させることが、次の授業のために必要となる。

第2時限目……円高円安に関する作業

- ① 導入 前の授業の「まとめ」の部分を再確認し、後出のプリントを配布する。
- ② 展開 わが国の原油の海外依存度の高さに言及しながら、原油価格が需給関係などによって変動していることを説明する。本時では1 bbl=10ドルと1 bbl=20ドルの2つのケースを想定して授業を進める。

※原油価格について、基準は多数あるが、ここでは一般の原油先行指標に従い、ニューヨーク証券取引所のWTI（ウェストテキサスインターミーディエイト）先物価格を採用した。

※1 bbl=10ドルは1986年のOPECによる価格設定。

次に、配布してあったプリントに各自記入させる。プリント内容は以下の通り。配布時、どれが円高で、どれが円安であるかをもう一度発問して確認する。

配布するプリントの内容

円ドル相場	
①	US \$ 1.00 = ¥100.00
②	US \$ 1.00 = ¥200.00
③	US \$ 1.00 = ¥300.00

※上の①～③は、下の表中の①～③に対応します。

<輸入>

	①の円ドル相場	②の円ドル相場	③の円ドル相場
1 bbl=US \$ 10.00	¥	¥	¥
1 bbl=US \$ 20.00	¥	¥	¥

<輸出>

	①の円ドル相場	②の円ドル相場	③の円ドル相場
日本国内価格300万円の国産車	US \$	US \$	US \$

全員記入後、正答を発表し、確認する。この後、生徒の学習習熟度などによって「グループ討論」なども可能になるが、ここでは以下の質問を通して、全員の理解を促すものとする。

- (ア) 円高（円安）によって日本の輸入費用は増えるか、減るか。
- (イ) 円高（円安）は日本の輸入品の価格を上昇させるか、下落させるか。
- (ウ) 円高（円安）は短期的には、日本国内の物価にどのような影響を与えるか。
- (エ) 円高（円安）は、あなたの海外旅行を楽にするか、困難にするか。
- (オ) 円高（円安）によってアメリカに輸出される日本車の価格は、アメリカ国内でどう変化するか。また、日本の国全体の輸出量はどう変化するか。
- (カ) 日本の石油輸入業者が、契約した時点では $1 \text{ bbl} = \text{US} \$ 10.00$ で、 $\text{US} \$ 1.00 = \text{¥} 100.00$ であったが、支払いは1年後という契約内容であった。その1年後には、 $1 \text{ bbl} = \text{US} \$ 10.00$ ではあったが、相場は $\text{US} \$ 1.00 = \text{¥} 200.00$ となっていた。
- ★この業者は得をするのか、損をするのか。
- ★どうすればこの危険を回避できるのか（基礎的な知識に基づく自由な発想を促す）
- (キ) 「経常収支」の中に「貿易収支」という項目があり、一般に「輸出—輸入」によって算出されるが、円高の進行は、日本の貿易収支にどのような影響を与えるか。
- ※もしくは、以下のような表を使用して、質問内容に工夫を加えてもよい。

【有利と思われる右の部分に○を記入しなさい】

項 目	円高	円安
日本の輸入業者にとって有利		
日本の輸出業者にとって有利		
日本人の海外旅行者に有利		
日本の国内の物価安定に貢献し、インフレをおさえるのに有利		
日本の経常収支、特に貿易収支の黒字化に有利		
日本でドルの「外貨定期預金」を作ると有利		

- ③ まとめ 円高と円安がマクロ・ミクロ双方の経済に与える大きな影響力を確認する。
- (4) 評価の観点
- (a) 「基軸通貨」であるドルと円との関係について、理解できたか。
- (b) どういう場合を円高ドル安（円安ドル高）と呼ぶのか理解できたか。
- (c) 円高・円安と、マクロ・ミクロ双方の経済的な事象との関連を理解できたか。
- (5) 指導上の留意点 高校生の学習内容としては難解である「変動要因」などに手を広げず、基本的な理解を最優先し、作業を通じて生きた知識を根付かせる。
- (6) 参考文献 「日米同時破産」(PHP 研究所)
- 「ゼミナール国際経済入門」(日本経済新聞社)
- 「実践ゼミナール 国際金融」(東洋経済新報社)
- 「私たちのくらしと為替レート」(日本銀行パンフレット)

3 戦後50年を機に日本とアジアの関係を考える

(1) 教材として取り上げた理由 第二次世界大戦が終わって50年が経過した。この戦争中に我が国がアジア諸国の人々に多大な苦痛と悲しみを与えたことはまぎれもない事実である。今、日本及び日本人はこれらの人々から信頼を得られるよう努力し、新時代の日本とアジアの関係を築いていかなければならない。今後より一層の国際化が予想される中で、21世紀を担う生徒たちに、日本と隣人であるアジアの人々との協調の重要性を理解させることをねらいとして、本教材を取り上げた。

(2) 本時のねらい 戦後の国際政治をテーマに6時間構成とした。第1時限目は、第二次世界大戦のヨーロッパでの終結を、第2時限目は、太平洋戦争の終結を、第3時限目は、東西対立と冷戦を、第4時限目は、非同盟諸国の動きを、第5時限目は、ソ連邦の解体と東西ドイツの統一を学習する。本時は最後の第6時限目で、アジア諸国民との協調精神を柱に前向きな真に友好的な国家関係の構築の重要性を理解させることに重点をおいている。学習指導要領では、「現代社会」の「(4)国際社会と人類の課題」の「ア 国際政治の変化」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導 入 10 分	50年前の戦争	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦及び太平洋戦争について簡単な説明を聞き、なぜ日本がアジア諸国から戦争責任を追及されるのかを考える。 	第1、2時限目の復習をする。
展 開	アジアに対する優越感の克服	<ul style="list-style-type: none"> 明治以降の伝統的な日本人の国民感情（欧米に対する劣等感とアジアに対する優越感）の説明を聞く。 国際法での主権国家間の対等関係を理解する。 	外国及び外国人に対する偏見を打破する。
	植民地の痛みを知る	<ul style="list-style-type: none"> 韓国併合を取り上げて朝鮮半島の人々が受けた苦痛や悲しみを共感する。 独立国家の主権を奪うことについて考える。 	事前に作文を提出させ、多かった感想や意見を紹介する。
	侵略問題の反省	<ul style="list-style-type: none"> 満州事変など日本軍の行為の中に侵略行為と判断できるものがあつたことを考える。 今後の対アジア外交の出発点として侵略行為への反省を国民に定着させる必要性を考える。 	現代の日本及び日本人の基本的視点を明確にする。

35分	経済協力の一層の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸国の日本に対する期待及び日本の現実的な能力・実力の説明を聞いて、アジア諸国への経済協力が日本にとって重要な政策課題であることを理解する。 	日本が最も得意とする分野であることを強調する。
	平和主義の重み	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸国が恐れていることは日本の軍事大国化であることを理解する。 ・日本の軍事大国化の懸念及び不安を解消させ、アジア諸国から信頼を得るための方策について考える。 	現行憲法の平和主義に触れ、その重みを実感させる。
まとめ5分	日本とアジアの新時代の開幕	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後50年の節目に際して、また間もなく21世紀を迎える転機をとらえて、対等で友好的な前向きの国家関係を作り上げていくことの重要性を理解する。 	アメリカとの二国間関係と比較する。

* 作文の題 「もし日本が他国に征服されて日本語の使用禁止及び生活習慣の変更を強制されたらどう思うか」(100字程度)

- (4) 評価の観点 ①太平洋戦争での日本の行為を理解できたか。②戦後のアジア諸国の対日感情を理解できたか。③今後日本がとるべき態度及び担うべき役割を理解できたか。
- (5) 指導上の留意点 ①国内外の記念行事及びマスコミの報道を通して、今年が戦後50年の節目にあたることを意識させる。②日本がアジア諸国から信頼され好感をもたれるようになるには、どのような行動が必要かを考えさせる。③民族差別や偏見を生じさせないように注意する。
- (6) 参考文献 「日本外交 反省と転換」 浅井基文 岩波新書
「反日感情 韓国・朝鮮人と日本人」 高崎宗司 講談社現代新書

IV 現代倫理の諸問題について考える

1 情報化と倫理

- (1) 教材として取り上げた理由 現在の日本は、「情報化」「高齢化」「国際化」など、安定、成熟した中にも新たに急速に変化・発展する途上にあるといえる。そのような急速な社会の変化に伴い、既成の価値観がゆらぎ(=価値観の多様化)、これが絶対という「価値」がなかなか見いだせない状況にある。このような状況だからこそ、大切なことは、基本に戻り、個人(人間)のもつ本来の価値(特に「理性」をもって根本から「考える」ということ)に向かうことではないかと考え、次のようなテーマを設定した。

(2) 本時のねらい 「情報化社会に生きる」について2時間で学習する。本時は第1時限で、個人が高度情報化社会の中で理性と感性をもって正しいもの（正しい事実・あるべき倫理的価値「善」）を主体的に選択することを考える。第2時限では前時の学習を踏まえて「情報化社会への課題」という題で小論文を作成する。学習指導要領では、「倫理」の「(2)現代社会と倫理」の「ア 現代社会の特質と人間」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導 入 10 分	「情報化社会」 に至る経緯	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本の社会では、ソフト化が進み、情報の価値がますます高まっていることを理解する。 「情報化」に伴う「価値」の問題は現代人が根本的に考えていく大変重要なものであることを認識する。 	事前に「倫理」の意味、人間の「価値」などについて学習している。 ※モノ…見えない生産物の総称
展 開 30 分	「情報化社会」 の功罪	<ul style="list-style-type: none"> 戦後民主主義の浸透と「知る権利」の現状について考える。 科学技術の進歩に伴うマスコミ、マスメディアの発達（特にTVに対する私達の「情報」の受け取り方）の影響について考える。 情報の洪水、情報の「価値」の混乱の実情を知る。 受け身的・感覚的な情報の受け取りによる目に見えないものの恐ろしさを認識する。 	情報の受け取り方については、アンケートを取るなどして工夫する。 ビデオなど使用。
ま と め 10 分	「情報化社会」 への課題	<ul style="list-style-type: none"> 個人が主体的に情報を選択し、価値判断する力を身につけるためにはどうしたら良いかを「情報」と「自分」とのかかわりのなかで考える。 	次の時間の小論文のテーマにする。

(4) 評価の観点 ①日常的な「情報化」にかかわる本時の学習内容を「現代」の重要な倫理的課題としてとらえることが出来たか。②今のこの時代に、個人が情報とどうかかわるか具体的に考えることが出来たか。

(5) 指導上の留意点 個人の主体的かつ素朴な「理性」判断を重視したい。そのために「こうあるべき」のような結論は初めに出さず、自由に考えさせ、具体的な話題から意見を集約する形をとる。そして、何があるべき姿なのか、最終的には自分の考えと他人の考えを比較検討し、よりよい意見の方向に向かえるように指導する。

(6) 参考文献

* NHK特集「メディアとプライバシー」（1994年放送）

* 天野祐吉のメディア論（参考：新聞記事）など

2 自然環境観の一視点と倫理

- (1) 教材として取り上げた理由 現代の環境問題は、複合的な、大きな問題である。したがって、環境問題を題材として自然や技術と人間関係について考えるには、適切な切り口によって、生徒が主体的に考えていくことができるように工夫することが大切である。ここでは、生徒が自然や技術とどのように関わっていくべきかを考えるために、日本の伝統的な自然観について自覚的に考えることを教材として取り上げた。
- (2) 本時のねらい 「自然や科学技術と人間」について4時間で学習する。第1時限では環境問題の具体事例として酸性雨の問題を、第2時限ではオゾン層の破壊の問題をそれぞれ学習し、第3時限(本時)には、日本の伝統的な自然観をもとに自然と人間との関係について考える。第4時限では、自然と人間の関係についての小論文を作成する。学習指導要領では、「倫理」の「(2)現代社会と倫理」の「イ 現代社会を生きる倫理」で扱う。
- (3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導 入 15 分	「自然」とは？	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然観(あるがまま、おのづから)を知り、西洋の自然観との違いを考える。 良い点…「自然」を尊重することが現代のトレンドだが、日本は伝統的にそのような価値観をもっていたという特質を理解する。 反省点…西洋のように「理性」をもって「自然」と対峙しなかった反面、「理性」をもってつねに「自然」との「かかわり」を考えていたかどうかを考える。 	問題提起として現在の環境問題の事例を動機づけにする。
展 開 30 分	自然環境問題への経緯	<ul style="list-style-type: none"> 科学の極端な自然支配=自然(の法則)破壊=生態系の破壊が「自然」と「人間」との関係のとらえ直しをしていることを知る。 世界の現代の環境問題に関連することを知る。 環境問題の国際的な取組みとして国連人間環境会議から地球サミットへの流れを理解する。 	具体的な環境問題を提起するがあまり細かい説明はしないようにする。
ま と め 5 分	日本の取組と課題(今私たちが再び考えなければならぬことは何か)	<ul style="list-style-type: none"> 公害対策基本法から環境基本法への流れの理解と、日本の地道な「自然保護への取組み」について知る。 西洋近代の人間観・自然観と現代日本人の伝統をふまえた「責任」について考える。 	次の時間の小論文のテーマにつなげていく。

- (4) 評価の観点 ①「環境問題」を多角的なものの見方からとらえることが出来たか。②わたしたちが「自然」とどうかかわり、今後どうかかわっていけばよいかを考えることが出来たか。

- (5) 指導上の留意点 前述の通り「環境」は大きな言葉なので、その言葉の意味や範囲を前もってきちんと説明しておかなければいけない。また、自然環境問題をまず、日本の「自然観」を軸にとらえる場合、「自然」という言葉について、あらためて考えさせ、伝統的な自然観、西洋の自然観との対比などを含めたバランスのとれたものの見方が出来るよう指導する。

また、このような問題はややもすると、結論が科学の全面的反省あるいは自然保護イコール絶対正義という考え方に陥る事がある。大切なことは結論づけをすることよりも、その前提として「個人」のかかわり方を考えることなので、この点を留意して指導する。

(6) 参考文献

- * 「日本人の心」 相良亨著（東大出版会UP選書）
- * 「翻訳語成立事情」 柳父章著（岩波新書）
- * 「自然保護という思想」 沼田真著（岩波新書）
- * 映画「おもひでぼろぼろ」 など

3 理性を学ぶ

- (1) 教材として取り上げた理由 カントの思想を手掛りに、人間の理性の大切さと、理性批判の大切さを考えさせる。近年、若者の間に超能力、超常現象、占いなどの、非合理的なオカルトへの興味がひろがっているといわれている。

若者の、理性に対する理解が不足していることがその背景にあると考えられる。そこで、カントの理性批判を手掛りに、理性に対する理解と、理性の限界について自ら考えさせる教材を構成した。

カントの思想における、合理論と経験論の融合という背景には、合理主義者であったカントが独断のまどろみをやぶられて、理性批判にむかい、理性に限界をさだめ、確実なものにするという事情があった。授業においては詳細に立ち入らず、思想史の流れを把握させるのにとどめるが、理性を批判することによって確実なものとしたという点を、生徒にはおさえさせたい。

カントは感性界（人間の世界）と英知界（神の世界、物自体の世界）を分けて、両者を混同することを戒めた。このような二元論を理解するとともに、理性によって把握できるものと、理性の能力を越えるものをわけて考えることが大切であるといえる。両者を混同することなく、分離して扱うものであることを、生徒に気づかせたい。

- (2) 本時のねらい 「合理的精神の確立」について5時間で学習する。第1時限では「ベーコンと経験論」、第2時限では「デカルトと合理論」、第3・4時限では「カントの批判主義・人格主義」を学習する。第5時限（本時）では、理性の大切さとその限界を理解しつつ、合理的なもの（理性によるもの）と非合理的なもの（理性の能力をこえるもの）の違いと分離について学習する。学習指導要領では、「倫理」の「(1)青年期と人間としての在り方生き方」の「イ 人間としての自覚」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 10分	・ 理性とは	・ 理性とは何か、身近な例から考えてみる。例えば、「理性的」とはどういうことか。 ・ 理性についての基本的な理解を身につける。	・ 理性の大切さ、科学や、日常における必要性に気付かせる。
展開 30分	・ 理性の重要性 ・ 合理的なものと非合理的なものとの対比 ・ 感性界と英知界	・ 自分の知っていることを、他の人にも認めてもらうにはどうすればよいか、考え、発表する。(=認識の普遍性) 例. 「世界が滅びる」という予言は皆に受け入れられるか。 例. 地球は丸い、ということはなぜ正しいか。 ・ 合理的なものと非合理的なものの違いを考え、例を挙げて答える。 例. 科学 ↔ 占い、予言など ・ カントが感性界（人間の世界）と英知界（神の世界）を分けて、混同することを戒めたことを理解する。「純粹理性批判」という著書の題名から、カントの理性批判の意味を理解する。	・ 生徒に考えさせ、発表させる。 ・ 理性や論理の大切さに気付かせる。 ・ 両者の違いを理解することの大切さに気付かせる。 ・ カントが人間の理性の限界を定めたことを理解させる。
まとめ 10分	・ 理性の意義 ・ 意見形成	・ 理性によって科学が発展したこと、合理主義が近代の原理であったことを理解する。 ・ 合理的なものと、非合理的なものとの融合は可能か、考えてみる。 例. 神秘的な体験を科学的に解明することはできるか。	・ 歴史を簡単にふりかえる。 ・ ノートに意見を書かせたり、発表させたりする。

(4) 評価の観点 ①理性とその限界について、基本的な理解は出来たか。②合理的なものと、非合理的なものとの対比を把握し、自らの意見を形成できたか。

例えば、「占いを科学的に説明することは出来るか?」、「宗教と科学を統一することは可能か?」という小論文を課す。問いに対する是非は問わないで、自分の考えが表現できているかどうかで評価する。

(5) 指導上の留意点 生徒の意見そのものの善し悪しは教師が決めることではないが、安易な解答や考えには適切なアドバイスをする。

(6) 参考文献 「カント入門」 石川文康 ちくま新書
「視霊者の夢」 カント全集第3巻 理想社
「純粹理性批判」 世界の大思想15 河出書房新社

4 脳死と現代倫理

- (1) 教材として取り上げた理由 今日では科学技術の発達によって、今まで不可能であったことが可能になってきた。たとえば医療の発達によって、体の一部移植が可能になり、角膜や皮膚の治療が行われている。最近では臓器移植も可能になって、今まで助からなかった人々に明るい希望が見えるようになってきた。今日、多くの日本人が臓器移植を求めて海外に出かけている実態がある。その一方では、臓器移植に対する多くの疑問点、問題点が提起され、批判もある。本時では脳死と臓器移植を教材として、臓器移植の問題点は何か、人命を尊重するとはどういうことなのか、などの現代科学と倫理の問題を考えさせたい。
- (2) 本時のねらい 「現代の倫理的課題」について5時間で学習する。第1時限では国際平和について、第2時限では環境の保全について、第3時限では差別と人権について学習する。第4時限(本時)では、臓器移植が行われるようになった背景、外国での事例、日本人の生命観等を通じて脳死の是非をめぐる論争の内容を知り、様々な主張を弾力的に受け止め、脳死の問題を自分自身の問題として考える。第5時限では、「脳死を人の死とする臓器移植法案に賛成か」というテーマでディベートを行う。学習指導要領では、「倫理」の「(2)現代社会と倫理」の「イ 現代社会を生きる倫理」で扱う。
- (3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導 入 10 分	脳死問題について	生命倫理と脳死について勉強することを知る。脳死患者の写真を見て、このような状態をもはや生きているといえるだろうかとの問いかけに答える。	長すぎないように気をつける
展 開 30 分	脳死問題の歴史	・プリントを利用しながら説明を受ける。 なぜ脳死が考えられるようになったか、その歴史的過程を知る。ここでは、患者、家族、病院の立場からそれぞれ脳死の概念を必要とした経緯を考える。	主張が偏らないように注意する
	海外移植	・日本人が、年間で数十名が臓器移植のために海外へ出かけている記事を読み、なぜこうなったのか考える。	
	日本の現状	・世界の国が脳死をどのように考えているか理解する。 ・また、日本ではどうなっているのか、現在も国民の基本的合意は得られていないこと、そして今なお議論の最中であることを知る。	
	脳死賛成の立場	・脳死を人の死と認める考え方を紹介する。医者、一般市民の声、脳死臨調などの資料を読む。	意見が偏らないように注意する
	脳死反対の立場	・脳死を人の死と認めない考え方を紹介する。たとえば脳死状態で出産したアメリカの女性を新聞記事で知り、果たして脳死は人の死と言い切れるか揺さぶりを受ける。	

まとめ 10分	思想を自分のことばで表現する	・自分は脳死を人の死と認める立場かどうか、考える。どちらともいえない場合もある。理由を考える。さらに患者や、家族、臓器移植を待つ人々の気持ちを察する。	質問はある程度用意しておく
------------	----------------	---	---------------

(4) 評価 ①脳死問題の基本的事項を自分なりに考えられたかどうか②様々な立場の考えを理解、想像できているか。③人間の死を深く考えているか。

(5) 指導上の留意点 ①発達段階を考慮し、難しい専門用語は使用しない。②脳死に関する具体例を豊富に示し、考える材料とする。③生命倫理のディベートとして、「戦争を防ぐための原爆などの大量殺戮の武器の所有は必要か」あるいは、「代理出産は認められるか」などのテーマで行い、リサーチ、発言の態度を評価する。

(6) 参考文献

「脳死」 立花隆、NHK取材班 日本放送出版協会

「生命の倫理を問う」 佐藤和夫他 大月書店 「日本の論点」 文芸春秋社

V 人権と差別について考える

1 差別と共生～差別する心を考える

(1) 教材として取り上げた理由 偏見や差別の解消に努力することは公民として大切なことであるが、差別はいけない、と教えるだけではあまり意味のあることではない。なぜなら、差別はいけないと、だれでも思いながら、差別が存在するのが現実なのである。そこで、様々な差別について学んだ上で、差別する心に焦点をあて、偏見や差別の問題を自分の生き方と深くかかわらせた授業を構成する。

(2) 本時のねらい 「偏見や差別の解消」について2時間で学習する。

第1時限は、以下の通りである。

- ◎ 社会における差別にはどのようなものがあるか問いかける（日本では、諸外国では）。
- ◎ 少数民族、女性、障害者、同和問題などの差別問題を明らかにし、考えさせる。
- ◎ アメリカなどでは老人や少数民族に対する差別の問題とその克服が試みられていること、及び、アファーマティブ・アクション（被差別者優遇措置）というものがあることを示す。

第2時限（本時）の授業は、教師からの問いかけと、それについての生徒の発言を通して、偏見や差別の問題を生徒が自分の問題としてとらえるようにすることに主眼をおく。そして、差別についての様々な考えを明らかにし、自分の中にある差別する心に気付かせ、それを克服することの大切さを学ばせたい。

学習指導要領では、「現代社会」の「(3)現代の政治・経済と人間」の「エ 民主社会の倫理」で扱う。また、「倫理」の「(2)現代社会と倫理」の「イ 現代社会を生きる倫理」の項目で扱うことも考えられる。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 10分	・差別の体験	・差別されたことはないか、差別したことはないか、考え、答える。	・身近なところにも差別があることを気付かせる（例えばいじめなど）。
展開 30分	・区別と差別 ・差別の理由 ・差別の解消方法	・区別と差別の違いを考え、答える。 ・差別の体験をとおしてなぜ人が人を差別するのか、考える。例えば、多数派が少数派をなぜ差別するのか、自分自身の心の中を考える。 ・差別はなくすことができるのか、という問いかけに対し、考えて、答える。 差別はなくすことができる→どのように？	・例えば、男女の区別と差別の違いなどを問いかける。 ・差別の心を相対化する。グループで話しあってもよい。 ・差別を自分の問題としてとらえ、人間としての在り方生き方と深くかかわらせる。
まとめ 10分	・差別する心との闘い	・諸外国の差別を解消する試みについて知る。 ・差別が意図的、歴史的につくられることを把握する。 ・違いを認めあうという、共生の大切さを理解する。 ・自分の心の中にある差別する心を克服することの大切さについて理解する。	・共生ということの大切さに触れる。 ・教員みずからの差別の体験や差別を克服するための試みを紹介する。

(4) 評価の観点 なぜ差別をするのか、どのように差別をなくすことができるのかということについての意見を、ノートやプリントに書かせる。生徒自身の内省のためにも有効である。観点は、①差別する心を自分自身の問題として理解できたか。②差別についての基本的な理解と自分の考えをもつことができたか。③差別をなくすためにどうすればよいか、考え、実践しようとしているか。

(5) 指導上の留意点 差別の問題を生徒自身に考えさせることが重要である。生徒が、「結局世の中は不平等で差別はなくなるらない」などと短絡的に考えることがないように配慮する。

2 キング牧師の思想とマルコムXの思想

(1) 教材として取り上げた理由 アメリカでは1964年に公民権法が成立し、黒人差別問題は法的にはなくなった。また政府の優遇政策により、黒人は教育、就職面等で優遇され、その中産階級は社会に進出し、今では政治家、文化人、スポーツ選手など各界で活躍する

黒人も多く知られるようになった。しかし、都市のスラムに残された貧困層の存在、犯罪者の激増、麻薬の蔓延、未婚母（少女）の増加、家庭崩壊といった影の部分は以前より一層ひどくなっている。アメリカの人種問題を認識し、現代社会に生きる倫理、倫理的生き方を考えていくことをねらって、黒人運動に生涯をかけた人物の思想と生き方を教材化した。暴力の克服と連帯の思想、人権、愛といったことにまで踏み込みたい。

(2) 本時のねらい 「現代思想」について6時間で学習する。第1・2時限では実存主義を、第3・4時限ではガンディとシュバイツァーの思想について、それぞれ学習する。第5時限（本時）では、キング牧師とマルコムXの思想を取り上げて比較し、公民権運動と行動する勇気について考える。第6時限では、現代の思想についての討論を行う。学習指導要領では、「倫理」の「(2)現代社会と倫理」の「イ 現代社会を生きる倫理」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 10分	黒人問題について	<ul style="list-style-type: none"> ・黒人運動の歴史を学習することを確認する。 ・アメリカの黒人で知っている人物を答える。 ・アメリカで黒人はどういう扱いをされていると思うか、知っていることを答える。 2人の写真を見せ、知っているか答える。	長すぎないように気をつける
展 開 30 分	黒人問題の歴史	・アメリカ黒人の歴史を板書とプリントを使って学習する。	簡潔にする
	キング牧師の思想と行動	・キング牧師の生涯を読む。年表や彼の著作を利用して彼の思想の生まれた背景を押さえる。彼が生まれつきクリスチャンだったこと、白人と協力しながら、黒人の市民権を認めさせるためにデモ行進など平和的戦術行動に出た背景にガンディやイエスの思想があったことを理解する。	白人と協力できたことをおさえる
	キング牧師の成功	・キング牧師の行動から、権利意識の芽生えた黒人と良心に目覚めた白人が協力、連帯して、幾多の苦しい試練に耐えながら、ついに1964年公民権を法制化したことを理解する。	
	キング牧師の苦悩	・キング牧師が、いくら努力をしてもスラム街が消えず黒人の暴動がなくなることに焦りだし、貧困層をなくすことがもっとも大切だと感じて、貧者の行進を始めた矢先に暗殺されたことを知る。	変化し始めた背景を押さえる

	マルコム X の思想 共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラックナショナリズムを主張したマルコム X の生涯と考え方をキングと比較しながら知る。 ・2人には暗殺される直前、社会問題の解決をめざしていたという共通項のあることを知る。 	簡潔にとどめる
まとめ 10分	思想を自分のことばで表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間に取り上げたキング牧師の思想と行動について感想を自分の言葉で書く。その際に、印象に残った言葉を書く。 	質問はこちらで用意しておく

- (4) 評価の観点 ①キング牧師の基本的な考え方を理解したか。②公民権運動の基本的な流れを理解したか。③自分の考えをていねいに表現しようとしたか。
- (5) 指導上の留意点 ①マルコム X については、時間の制約もあるので、あまり詳しく取り上げなくてもかまわない。②ビデオの使用などイメージをもたせる映像を利用する。
- (6) 参考文献 「キング牧師とマルコム X」 上坂昇 講談社現代新書
「アメリカ黒人の歴史」 本田創造 岩波新書
「良心とトランペット」他 M. キング みすず書房

VI 地球環境の危機

1 オゾン層の破壊

- (1) 教材として取り上げた理由 「地球に穴があいている」という衝撃的なニュースが、1985年、イギリスのファーマンらの学者によって報告された。いわゆる、「オゾン層の破壊」である。地球的規模で進行する環境破壊のなかで、とくにこの「オゾン層の破壊」はその汚染物質の多くが日常生活のなかの身近な製品に使われていることを認識し、このような製品と私達がどうかかわっていくかを考えると同時に、その汚染物質の元凶であるフロンガスの排出量において日本が汚染大国である現状を直視するとともに、そのなかで、今後日本の果たす役割と責任を一人一人が考えなおすことが重要である。
- (2) 本時のねらい 4時間構成の3時間目で扱い、第1時限「環境問題の世界的取り組み」、第2時限「地球の温暖化と酸性雨」、第3時限「オゾン層の破壊」(本時)、第4時限「熱帯林の破壊が地球環境に及ぼす影響」とする。本時では、①オゾン層の破壊の現状と、そのメカニズムを理解させる。②この破壊がもたらす地球環境への影響を理解させる。③私達ができる、身近な解決策としてどのような努力が必要か考えさせる。

学習指導要領では、「現代社会」の「(2)環境と人間生活」の「イ 環境保全と倫理」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 10分	・オゾン層の破壊と現状とそのメカニズム	・オゾン層の破壊に関する視聴覚教材の上映。 ・フロンガスを使用している製品を考える。 ・各自治体の具体的対応策とその取り組みの問題点を考える。	朝日新聞、 '95.8.24
展開 30分	・オゾン層の破壊による健康被害と生態系への影響 ・フロンガスを使用している製品の具体的な取り扱いとその問題点	・オゾン層の破壊によって発生する様々な人体への影響を考える。 ・農作物への影響や、プランクトン等に及ぼす影響と生態系との関係について考える。 ・日常生活のなかの身近な製品として、冷蔵庫と自動車のエアコンにスポットをあて、それぞれに使用しているフロンガスが交換、廃棄されるときに対応と代替フロンの問題点を考える。	資料『WHO環境保健クライテリア14』
まとめ 10分	・オゾン層の破壊をどのようにとらえるか	・環境破壊に国境はないことを認識する。 ・各国の環境保全に取り組む姿勢が国際政治の問題になっていることを理解する。 ・私達一人一人がこの問題を身近な問題としてとらえ、汚染物質をどのように減らすかを日常生活のなかで考える。	

(4) 評価の観点 ①環境問題が地球全体の問題であることに注目させる。②環境問題に取り組むことで、「人間が生態系の中で生存していること」という考え方を認識することができたか。③「日常生活のなかから環境問題を考える」という姿勢が重要であることが理解できたか。

(5) 指導上の留意点 ①科(化)学的説明に深入りしない。特にフロンガスがオゾン層を破壊するメカニズムについての難解な化学式等はできるかぎり簡略にする。②工業高校では学科の特質を生かし、体験的学習を取り入れることもできる。

(6) 参考文献 平成7年度「環境白書」 環境庁
「地球環境ハンドブック」 朝倉出版
「オゾン層とフロンガス」 一橋出版

2 熱帯林の破壊が地球環境に及ぼす影響

(1) 教材として取り上げた理由 熱帯林の急速な減少を人の死にたとえると、核戦争が「心不全」、森林の減少が「癌の進行」にあたとまでいわれている。この様に、森林の減少がこのまま進行すれば、生態系への影響はもちろん、種の絶滅も懸念されている。熱帯林の減少にはいくつかの要因が考えられるが、その要因が複合的に作用している点に注目

し、途上国に見られる人口の増加と都市化、先進国の木材輸入等にも目を広げながら、熱帯林の破壊の問題を考えさせることをねらいとして、本教材を取り上げた。

- (2) 本時のねらい 4時間構成の4時間目で扱い、第1時限「環境問題の世界的取り組み」、第2時限「地球の温暖化と酸性雨」、第3時限「オゾン層の破壊」、第4時限「熱帯林の破壊が地球環境に及ぼす影響」(本時)とする。本時では、①地球環境保全のために、森林の果たす役割を理解する。②減少の要因について理解を深める。

学習指導要領では、「現代社会」の「(2)環境と人間生活」の「イ 環境保全と倫理」で扱う。

(3) 展開例

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> 熱帯林の果たす役割 熱帯林の減少の現状 	<ul style="list-style-type: none"> 熱帯林の果たす役割を気象への影響や二酸化炭素濃度への影響等、日常生活に関わる具体的な事象を提示し考える。 熱帯林の減少の現状については、視聴覚教材等を活用しながら、その実態について考える。 	「地球が危ない」 NHK
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> 熱帯林の減少の原因 	<ul style="list-style-type: none"> 熱帯林の減少が単一の原因ではなく、複合的な問題によって発生していることを理解する。 複合的問題として、開発途上国の人口の増加が熱帯林の減少に拍車をかけている人口問題や、日本をはじめとする熱帯林材の輸入国の現状と対応等を理解する。 	
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 熱帯林の減少をくい止めるには 	<ul style="list-style-type: none"> 私達一人一人が、個人、自治体、企業、国の立場に立ったとき、何ができるか考える。 	

- (4) 評価の観点 ①地球上の熱帯林の減少が危機的な状況であることが理解できたか。②また、理解を深める際、その原因が複合的に形成されたことも理解できたか。③この問題が地球環境に及ぼす影響が甚大であることが理解できたか。

- (5) 指導上の留意点 ①資料、データ等を多数活用するので、その読み取りに注意する。
②「持続可能な開発」という考え方がこれからの環境問題を考えるうえでのキーワードであることの認識に心がける。

- (6) 参考文献 平成7年度「環境白書」 環境庁
「環境と公害を考える」 東京都教育委員会
「地球環境ハンドブック」 朝倉出版

平成7年 参議院議員選挙の比例区の選挙結果

政党	新進	自民	社会	共産	さきがけ	二院クラブ
得票数	12,506,322	11,096,972	6,882,918	3,873,954	1,455,886	1,282,595
得票率	30.75%	27.29%	16.92%	9.53%	3.58%	3.15%
議席数	18	15	9	5	2	1
議席率	36%	30%	18%	10%	4%	2%

注：掲載した政党は議席を獲得したもののみ（政党名は略称）

仮定の選挙結果に基づく作業

政党と得票	A党 240,000	B党 210,000	C党 150,000	D党 105,000	E党 45,000
÷ 1	240,000				
÷ 2	120,000				
÷ 3	80,000				
÷ 4	60,000	52,500	37,500	26,250	11,250
÷ 5	48,000				
獲得議席数					

作業の手順

1. 各党の得票数を1から順に整数で割った数を出す。
2. 大きい順に番号を振る。

作業 ドント式計算法で議席配分を行う（比例区の定数は10とする）

(資料 2)

「Ⅱ 我が国の政治経済の課題 1. 日本経済の成長と規制緩和」学習を終えて

生徒が授業の最後に作成した意見文から、いくつかを提示する。

- ・規制緩和をどんどん進めるか、ゆっくり進めるか、どちらが良いか、わからないけれど、とりあえず、やれるだけやってみれば？ やってみれば良いか悪いかははっきりするから、そしてら、また、考えれば？
- ・日本はリッチなのだから、途上国の言うことはきいてあげるといい。アメリカなんかの言うことはきかなくていい。アメリカだってリッチなんだから。
- ・都会に住む人が多いわけだから、都会人がうまく暮らせることを考えて規制緩和していくのが一番。
- ・日本は資源がないから、食べ物くらいは飢え死にしないように作れるようにしておかないと困る。食べ物関係は緩和しないで、他のものは緩和するように。

(資料 3)

「Ⅲ 現代倫理の諸問題 4. 脳死と現代倫理授業」授業後の生徒の感想(1学年)

質問：あなたは臓器移植に賛成か反対かまたはどちらに近いかな。

- ・反対。たとえば自分の家族や最愛の人が脳死状態になってしまったとする。そんなときに「臓器移植をしてください」といわれても絶対にいやだ。たとえ生き返らなくてもその人の体はきれいなまま死なせてあげたい。
- ・賛成。考えることも動くこともできぬ人間にどれほどの意味があるだろう。「人間は考える葦である。」というように、人間は考えるものだ。それができぬ人間など、人間の皮をかぶったミイラだろう。臓器を必要としている人がいれば、その人はそれで助かれれば良いではないか。
- ・反対。脳死した人は意識が戻る事が少ないけれど、臓器移植をしてしまったら、もう本当に死んでしまう。それは人の命の引き替えをするみたいでいやだ。脳死では脳が死んでしまっただけで体が生きているのだから、それはやっぱり生きているのだと思う。
- ・反対。自分が生まれたときからもっているものを替えるというのは変な気がする。
- ・賛成。移植をすることによって人の命が助かるのなら、その家族は臓器を提供するべきだと思います。もし臓器を必要としている人が、臓器移植をすることで助かる確率がとても高くなるのなら、相手の方を優先させるべきだと思います。

質問：あなたは脳死を人の死と認めるか。

認める…21人 認めない…11人 どちらとも言えない…10人

認める側の意見

- ・脳死状態というのは脳の機能が元に戻らないで、その人は生命維持装置を使わないと呼吸できないだとしたら「ひとの死」と認めていいと思う。

認めない側の意見

- ・子どもまで産んでしまうのだから、人の死ではないのではないかな。また、家族の人達は生き返るというわずかな割合を信じていると思います。生命維持装置を付けて息をしているのに死と認められるのはおかしいと思います。